

県下の交通事故 (11月29日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
58年	4,169件	118人	5,348人
59年	4,060件	99人	5,269人
比較	-2.6%	-16.1%	-1.5%



◇第66号◇

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1  
財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 甲府 (0552)37-7827



横断は手をあげて左右の確認忘れずに

# 無事故で楽しい新年を

## 12月10日から県民運動

### 年末年始の事故防止

1月10日

年末年始は、飲酒の機会が多くなるほか、交通が混雑し、あわただしさも加わって交通事故が多発することが予想されます。このため県交通安全対策本部・県交通安全推進協議会の主催で十二月十日から一月十日まで「年末年始の交通事故防止県民運動」が実施されます。ことしの県内の交通事故死者は、前年に比べて減少しているものの、五月以降増加を続け憂慮される情勢にあるため例年より十日早くこの運動を行うこととしたので、これ以上死者をださないために県民総ぐるみで運動に参加し、交通事故防止につとめましょう。

### 飲酒運転絶滅に

#### 四ない運動展開

- 運動の重点**
- 飲酒運転の絶滅
  - 二つとも高齢者の交通事故防止
  - シートベルト・ヘルメット着用の推進
  - 飲酒運転の絶滅
- 飲酒運転を絶滅するため
- 飲酒運転を絶対しない運動の推進（「運転するな

この事故は、普通乗用車と自転車が衝突し、自転車に乗っていた被害者が重傷を負った事故です。

昭和五十二年九月九日午後五時頃、大坂市内のアスファルト舗装、制限速度四〇キロの市道において、被害者は自転車に乗って左側を進行中、急に合図もせず右側へ道路を横断しようとしたところ、後方を走っていた普通乗用車にはなれられて負傷したものです。

被害者は、加害者に前方不注意の過失責任があったとして、本人および雇用主に対し、損害賠償請求をしました。これに対し加害者は次の理由を述べて、不可抗力であると主張しました。



**安全のため**

今回は交通事故と責任の問題について考えてみました。

不可抗力と思われような事故でも、加害者の過失責任が認められる。

「私は、時速四〇キロの制限速度で進行中、前方一七・九メートルの地点を進行中の被害者を見、左側部分が二メートルあったので、追いつけずと判断したところ、二二・六メートルの地点まで来たところ、被害者が急に右折しようとした。あわてて急ブレーキをかけたが間に合わず衝突した。」

た。時速四〇キロでアスファルト舗装道路における停止距離は、一六・七メートルであるから、誰が運転しても衝突する。従って不可抗力であり、被害者の一方的過失である。」と。

これに対し大阪地裁は、「自転車は車体が不安定であり、僅かな接触でも転倒し重大な結果が発生することが予想される。したが

た交通安全教育の徹底

- 夜間外出の自粛
- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)

た交通安全教育の徹底

- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)

た交通安全教育の徹底

- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)

た交通安全教育の徹底

- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)

た交通安全教育の徹底

- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)

昭和60年

交通安全年間スローガン

最優秀作

運転者向け

シートベルトいつも乗るたび乗せるたび

歩行者・自転車乗用者向け

まがり角 とまる習慣 待つしつけ

子ども向け

とび出しは ぼくも車も どつきんこ

運動の推進

- 安全快適な交通環境の確保
- シートベルト・ヘルメット着用の推進
- シートベルト・ヘルメット着用の推進

シートベルト着用「モテル地域」および「モテル地域」を中心とした着用の推進

- ヘルメットの正しい着用方法の指導と効果の広報
- 学校、事業所等における指導強化

秋もようやく深まってきた十月月上旬、県安協恒例の役員研修旅行が行われ、交通安全事故抑止を願う安協の研修として、ことしは市原交通安全事務所の見学をおもなスケジュールに盛りこんだことなどあつて、例年になく多数の方々参加をえて、二日間にわたつての研修を有意義に終わりました。

### 交通事故と責任

山梨県交通安全協会専務理事 塩川 光男



「私は、時速四〇キロの制限速度で進行中、前方一七・九メートルの地点を進行中の被害者を見、左側部分が二メートルあったので、追いつけずと判断したところ、二二・六メートルの地点まで来たところ、被害者が急に右折しようとした。あわてて急ブレーキをかけたが間に合わず衝突した。」

た。時速四〇キロでアスファルト舗装道路における停止距離は、一六・七メートルであるから、誰が運転しても衝突する。従って不可抗力であり、被害者の一方的過失である。」と。

これに対し大阪地裁は、「自転車は車体が不安定であり、僅かな接触でも転倒し重大な結果が発生することが予想される。したが

た交通安全教育の徹底

- 自転車の正しい乗り方の推進
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)
- 自転車三ヒカ(ライント・後部反射・ペダル)







# 大野美穂さん(巖中)が優勝 代表17人が熱弁

## 第26回県中学生交通安全弁論大会

第二十六回山梨県中学生交通安全弁論大会(県交通安全協会、NHK甲府放送局、交通山梨新聞社主催)が十月二十四日、甲府市飯田三丁目のNHK甲府放送局第一スタジオで開催されました。

大会には、県内各地区の子選大会で代表となった十七人の中学生弁論士が出席し、七分の持ち時間で、友人を事故で亡くした体験や、日常生活を通して交通安全に



真剣に交通安全を呼びかける中学生

ついて考えていることなどを発表しましたが、とくに論旨や表現力も豊であり、弁論発表の向上が目立っていました。

審査の結果、「交通安全に対する意識」と題して、車に乗る人間が意識をかねて一人ひとりが交通安全に努力しようと呼びかけた上野原町立巖中三年、大野美穂さんが優勝し、優勝旗と知事賞を受賞しました。

(優勝)〇知事賞  
大野美穂(巖中)  
(準優勝)〇県議長賞 阿久

審査の結果、「交通安全に対する意識」と題して、車に乗る人間が意識をかねて一人ひとりが交通安全に努力しようと呼びかけた上野原町立巖中三年、大野美穂さんが優勝し、優勝旗と知事賞を受賞しました。

(優勝)〇知事賞  
大野美穂(巖中)  
(準優勝)〇県議長賞 阿久

## 県内をキャンペーン 交母連の全国キャラバン隊

### 交母連の全国キャラバン隊

みんなですすめる交通安全をテーマとした「全国交通安全母の会の全国キャラバン隊」は第六回目を迎えて、八月十六日から約一ヶ月間全国七コースで実施されました。関東コースのキャラバン隊は、八月十七日埼玉県を出発し同二十三日静岡県から本県に入りました。

県交母連(鶴田美枝会長)では、八月二十三日県庁前で県内コースの出発式を行い、知事代理・功刀県民生活局長、古川県警本部長、原甲府市長ら来賓に後藤田総務庁長官のメッセージを贈り、激励を受けたあと、全交母の広報車を先頭に甲府、南甲府交母のパレードと共に出発し、八月二十五

沢みどり(大月東)〇県警本部長賞・甲府市長賞  
名取恵美(甲府北東)〇県教育長賞 保坂理枝(梨大付属)  
(優秀賞)以下出場順  
渡辺克全(六郷)内藤正文(一宮)望月知恵(白根巨摩)白倉昌広(増富)望月恭子(城南)興水美香(高根)佐野文人(富原町立巖中三年)大野美穂(巖中)依田果里(塩山)加々美和子(明見)長谷川理恵(中富)浅川阿豆(泉)小澤伸江(山梨北)



交通事故救急法を研修する母の会

## 二輪車安全指導体制を強化し 指導員等講習会開く

県二輪車安全運転推進委員会(塩川光男委員長)は二輪車安全運転指導体制の強化、原付講習の充実と交通事故防止のために、県警交通部の指導協力をえ、七月二十七日と八月二十四日の両日、八田村の免許センターで二輪車安全運転指導員、準指導員の資格認定審査を行い、新たに中央審査委員会の書面審査を経た指導員十名と準指導員

## 新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では、新しく次の映画を購入しました。無料で貸し出しします。ご利用ください。

一 明日への警鐘  
交通事故・その悲劇―  
16ミリ、カラー、29分  
一般、運転者向  
交通事故が描く波紋は想像以上に大きく、被害者、加害者本人はもとより、その家族や周りの人達にまで計り知れない苦悩を与え、数多くの悲劇を生んでいます。この映画は、実際に事故を起こした被害者、犠牲となった被害者や家族の実態を追跡して、交通事故の恐ろしさを描いて、この悲劇を繰り返さないため、明日への警鐘とするものです。

二 運転とこころ  
―あせり、いかり―  
見事合格した指導員等は、二輪車、原付車講習の大きな力となることでしょう。また、新しい指導員の誕生を機会に、実技指導の向上を図るために、十月十二日指導員、同月二十六日指導員を対象として原付車指導員を重点に講習会を開きました。

新任の指導員等も参加し、百五十一名の受講者は、県警試験場長をはじめ特別指導員の適切な指導のもとで、終始熱心に実技指導要領を体験しましたが、これから活躍が期待されます。

なお、閉講にあたって合格者に認定証を交付するとともに、平素、積極的に講習会等に参加している、優良指導員八名が、県二推委員長賞を受けました。

(受賞者) 岡田孝行(甲府) 牛山進(山梨早川力(甲府) 加藤又男(若草) 久根口実(都留) 小池利和(大泉) 佐藤秋夫(甲府) 土屋誠一(甲府)

あなたにとって自動車は必要ですか。多分だれもが必要だと答えるでしょう。それは自動車は私達の生活手段であって絶対に手ばなせないものだからです。

今や自動車産業は日本の基幹産業であり、戦後その生産台数は飛躍的な伸びを示しています。それと同時に交通事故による死亡者も増大してきています。

この自動車と交通事故の関係からいえば、「交通事故をなくすには自動車をなくせばいい」と思うわけでは、私達は座ったままでもどこへも行ける、この快適な生活を失うわけにはいかないのです。

自動車の性能はここ数年で目覚ましい進歩をとげてきました。そして、それと

## 交通安全に対する意識

巖中 大野 美穂



共に対策も進歩してきています。自動車の性能アップ、タイヤの性能アップ、シートベルトなどいろいろあります。しかし、いくら技術的に安全対策が進歩しても交通事故がなくなるならないのは、どうしてでしょうか。それ

をわかっていないのに実際ドライバのほとんどはシートベルトを締めていないのです。交通安全に対する意識は一体どこへ行ってしまったのでしょうか。

もし、どうしても一人ひとりで気をつけることができないのなら、法律をもつ

果たして、こんなことが許されるのでしょうか。せつかくドライバーに、そんなスピードだと、運が悪ければ病院のベッドの上か、おなかの中だ、と警告しているのではありませんか。このように人間の交通安全に対する意識をかえなければ、い

も、それをもとに自分の親や知人の話題に交通事故防止の意見をかわすことはどうでしょう。

「何故、お父さんはシートベルトを出さないの」  
「何故、お母さんはシートベルトを締めないの」  
など、さまざまなことが話題になると思います。

このようなことを町内の中学生が親にいう。やがて県内の中学生が呼びかける。そうすれば日本に大きな交通安全の輪が広がっていくのではありませんか。

少しずつ私達中学生をはじめ社会の一人ひとりが交通安全に対する意識を持ちましょう。そして大人も子供も、現在と未来とを結び、一瞬一瞬を真剣におくろうではありませんか。



原付車実技指導要領を研修する準指導員

見事合格した指導員等は、二輪車、原付車講習の大きな力となることでしょう。また、新しい指導員の誕生を機会に、実技指導の向上を図るために、十月十二日指導員、同月二十六日指導員を対象として原付車指導員を重点に講習会を開きました。

新任の指導員等も参加し、百五十一名の受講者は、県警試験場長をはじめ特別指導員の適切な指導のもとで、終始熱心に実技指導要領を体験しましたが、これから活躍が期待されます。

なお、閉講にあたって合格者に認定証を交付するとともに、平素、積極的に講習会等に参加している、優良指導員八名が、県二推委員長賞を受けました。

(受賞者) 岡田孝行(甲府) 牛山進(山梨早川力(甲府) 加藤又男(若草) 久根口実(都留) 小池利和(大泉) 佐藤秋夫(甲府) 土屋誠一(甲府)



交通事故ゼロの願いをこめて、昭和六十年に使用する「交通安全年間スローガン」が決まりました。三部門の最優秀作品(一面掲載)と佳作は、次のとおりです。このスローガンを行動に移し、交通安全運動を大きく前進させたいものです。

佳作(全日本交通安全協会会長賞)

◆運転者向け

あせらずに ゆずるやさしさ まつゆとり  
まだいたの のんでのるひと のせるひと  
飛ばすまい みんなの街です 道路です  
やさしさが 好きですあなたの その運転  
飛ばさない いらいらしい 割込まない  
いい出会い ゆずる笑顔の 交差点  
運転の マナーをみている ちいさな目  
シートベルト 締める習慣 あなたから  
ヘルメット かぶって安心 ミニバイク  
シートベルト かけて安心 心にゆとり

◆歩行者・自転車乗用者向け

「よく見てね」あなたのひとこと 子を守る  
横断は 目で確認 手で合図  
自転車も 持とつ心の 免許証  
自転車も ルールとマナー 身につけて

昭和60年交通安全年間スローガン

歩くにも ゆとりとマナーを 忘れず  
まず止まれ! 車が来ても 来なくても  
いま一度 青でもたしかめ 渡るくせ  
わが家から 事故で泣く人 出しません  
お茶の間の 会話が育てる 交通安全  
育てよう 安全意識を 茶の間から

◆子ども向け

やっています いつも自然に 右左  
交差点 おしゃべりやめて 右左  
おにごっこ おにも止まる 赤信号  
そのかど つぎのかどにも またくるま  
安全と わかっているも たしかめて  
気をつけよう すぐにとび出す わるいくせ  
悪ふざけ めいわくいっぱい 事故いっぱい  
交通ルール きちんとまれば いい気分  
とび出すな 注意する子に けがはない  
けがのもと 飛ばす自でんしゃ ふざけっこ

地区だより

○秋の交通安全運動

九月二十一日から三十日までの十日間、全国一斉に秋の交通安全運動が行われ、県内においても、各地区安協や関係機関、団体等の協力により多彩な行事や交通安全啓蒙活動を展開し、運動の盛りあがりを見せました。期間中の交通事故は、件数二二五件、前年比二六・二六%増、死者二人、前年比三二・五〇%減。



交通安全パレードで秋の運動はじまる(甲府)



保育園児の交通安全教室開く(南甲府)



心をこめて安全運転を願う(小笠原)

第18回交通安全写真コンテスト

金賞など15点入賞

傷者一五三人、前年比二七・八二%増と件数、傷者は増加したものの死者は半減し、ますますの成果といえます。関係の皆様のご貢献に感謝し、活動の一端を紹介いたします。

○高齢者交通安全総講習を実施(小笠原) 小笠原署(鶴田治昭署長)では、ここの交通安全事故とくに死亡事故が激増し、しかも交通弱者である高齢者の犠牲が多いことからこれを防止するため、安協、交通安全クラブ等と協力し高齢者交通安全総講習を実施した。

○高齢者に「優良歩行者証」を贈る(日下部) 日下部署(八巻義忠署長)は、春日居町と協力して、お年寄りの安全意識を高め交通安全事故を防止するため、外出時に注意すべきこと等を守っている町内の高齢者に「優良歩行者証」を贈り、安全歩行の励みを確認しました。

○交通安全協会主催、県警察本部・山梨日日新聞社後援の第18回交通安全写真コンテストは、八月二十一日をもって締め切りしました。今回は、一般交通の場面や交通安全の現場を撮影したものなど六十一点が出品されました。九月二十八日審査の結果、最優秀賞は該当がなく、金賞三点、銀賞六、銅賞六点を決定し、入賞者には賞状、賞金を、参加者に記念品が贈られました。



サラリーマンの必要経費は、どの位か、ご存知ですか。所得税は、原則として、その年の収入金額から、必要経費を差し引いた残りの金額に対して課税されます。

金額欄が設けられています。この両欄の差額、すなわち「給与所得控除額」がサラリーマンの必要経費に相当するとされています。給与所得控除は、サラリーマンの勤務に伴う必要経費などの概算控除として、給与所得者だけに認められており、事業所得者等の必要経費に相当するものではありません。給与の年間収入金額に応じて、次のとおり定まっています。

- 一、〇〇〇万円超 年収入×五%
- 一、〇〇〇万円以下 年収入×四%
- 一、〇〇〇万円以下 年収入×三%
- 一、〇〇〇万円以下 年収入×二%
- 一、〇〇〇万円以下 年収入×一%
- 一、〇〇〇万円以下 年収入×〇%

長坂地区高齢者交通安全推進大会



高齢者交通安全クラブ百寿会を結成する(長坂)



小中学生の交通安全レターをドライバーに贈る(市川)



高齢者の交通安全教室を開く(日下部)

- 県下一の 広いコースで 早い上達を!
- 伝統ある当校で 1日も早く免許証をあなたの手へ

財団法人 山梨県交通安全協会経営

公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内 TEL 05528-5-0752